



開発計画策定のための  
方法を学びました!

**地方行政能力を向上させる**

難民と地域住民の関係をよい状態に保つためにも、地域の課題を客観的に評価して優先度の高い事業から取り組むことが重要。効果的な開発計画を策定する方法を地方行政官が習得した。

**課題解決のための活動**

**地域を強くすることで  
社会を強くする**

地域住民が結束して生活を向上させ、社会を強くすることで、難民の生活の保障にもつながっていく。地方行政官が地域をたびたび訪問して、住民との良好な関係を築いている。



地域住民と難民が取り組む農業に牛耕を導入し、生産性と収入を高める。

帰還できるような体制が難民の母国で整わないなかで難民を追い返したり、別の地域に移動させたりすることは、ウガンダとその周辺地域全体を不安定にする。難民を受け入れる側の住民、地域、そして行政の能力強化によって、難民も地域活性化の力となって、地域住民と共存できる環境を整えること——「人間の安全保障」の視点の重要さがここににある。



道路が未舗装で  
交通が不便!

**ウガンダが  
抱える課題**

**地域開発の遅れ**

難民を多く抱える西ナイル地域は、他の地域に比べて開発が遅れている。道路、橋、井戸の整備など取り組むべき課題が多数あり、難民と地域の生活維持と強化のため、行政の能力を向上させる協力が必要だ。

**データを活用して納得のいく事業を実施**

難民居住区と受け入れコミュニティにおける必要情報を集約・解析した結果に基づいて優先して行う事業を決定。その内容を地域に伝えることで行政に対する地域からの信頼を確保して、難民の安定した暮らしにつなげることを目指す。



右：必要な情報を手書きで記入した地図。  
左：人口、保健所などの情報を集約した地図。



**地域コミュニティからの不満**

居住区周辺の保健所や学校を利用する難民に対して、生活に影響が出るようになったウガンダ人の不満が強まった。難民の暮らしの安定のためにも、ウガンダ人へのサポートも必要になっている。

たくさんの生徒を  
教えるのは大変!

**難民との共存を  
地域の方に**

他国では例をみないほど、難民に寛容な受け入れ政策をとっているウガンダ。しかし、ウガンダ全土で約140万人の難民が長期に滞在して地元の資源が逼迫することが、コミュニティの脅威となっている。JICAはウガンダ政府とともに、難民と受け入れコミュニティ双方が自らの力で安心して共生できる社会を実現し、脅威の連鎖を防ぐ。

文●久保田 真理

Republic of Uganda

首都：カンパラ

**ウガンダ**

国名：ウガンダ共和国  
通貨：ウガンダ・シリング  
人口：4,272万人  
(2018年、世界銀行)  
公用語：英語、スワヒリ語、ルガンダ語

**難民と地域住民との  
軋轢<sup>あつれき</sup>が発生**

「難民に寛容な国」といわれているウガンダでは、難民に国内移動の自由や就業の権利を認めている。その背景には、国内の紛争で難民になった多くのウガンダ人を近隣国が受け入れた歴史がある。またウガンダ北部と近隣国には民族的な親和性があるため、助け合う意識を持っているという。

しかし、紛争という脅威が及ぼす影響は大きい。国内北西部の西ナイル地域には、以前からウガンダ近隣国のコンゴ民主共和国や南スーダンからの難民が流入していたが、2016年にはその数が70万人を超えた。急激な流入により難民居住地での生活環境の整備が追いつかず、難民はウガンダ人が暮らす地域の学校や保健施設、給水施設などの公共サービスを利用するようになった。その結果、今度はウガンダ人が十分な公共サービスを受けられないという事態に。一部のウガンダ人と難民との間に軋轢が生じるだけでなく、「難民ばかりが支援を受けている」とウガンダ人が地域行政にも不満を募らせた。脅威に晒されている難民自身が、現地コミュニティや地方政府にとっての脅威ととらえられるという、負の連鎖が起きかねない状態だった。

**受け入れ地域での  
包括的なアプローチ**

難民を受け入れる地域社会全体の対処能力を高めるためには、地域社会が直面している問題を把握することが必要だ。ウガンダでは当初、難民受け入れ地とウガンダの行政区が併記されている地図さえなく、この地域の社会インフラなどの現状もわからなかった。そこで、JICAはまず人口など基礎的な情報を収集した後、教育、保健、水、道路や橋などの状態を確認する調査も実施して統合データを作成。この統合データに基づ

\*1 20年以上紛争状態に置かれていたウガンダ北部では、社会インフラへの投資が停止して開発が遅れたため、約200万人がウガンダ国内で避難生活を送ることになった。